

古ふる池いけや
古ふる池いけや

蛙かわずとびこむ
蛙かわずとびこむ

水みづの音おと
水みづの音おと

(作者) 松尾芭蕉。寛永二十一年(一六四四)〜元禄七年(一六九四)。

(通釈) 草庵のかたわらにある古池。遅々とした静かな春の日中、蛙がその古池に飛び込む音が静寂を

破り聞こえてくる。(季語は蛙、仲春)

(参考) 漢詩や和歌では「鳴蛙」「鳴く蛙」として詠まれてきたが、そうした伝統的表現を水に飛び込

む音によって新たな句境を切り開いた作。